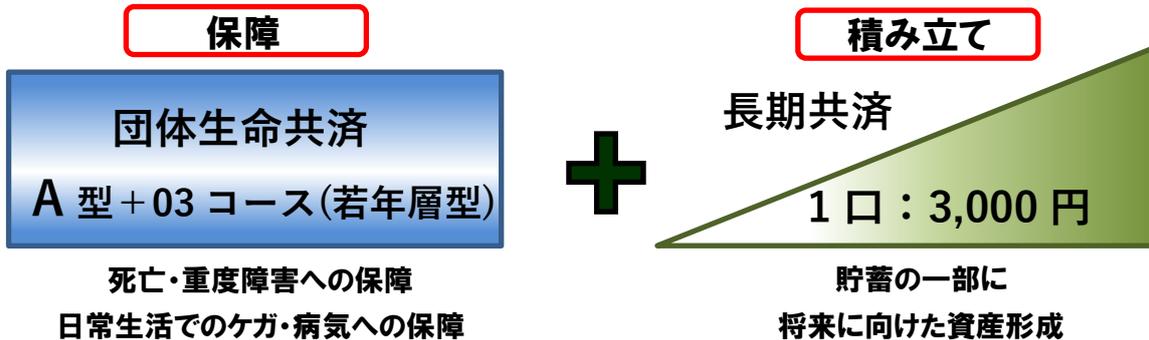


1. 備えていただきたい保障と積み立て

保障と積み立て、どちらかが一辺倒にならずバランスが取れた備えが肝心です。



2. 団体生命共済(保障) A型とは【若年層型】

死亡・重度障害の保障から、病気・ケガによる入院・手術等の医療保障がセットになった制度です。

死亡	死亡・重度障害		100万円
	不慮の事故・感染症による	死亡	200万円
		身体障がい状態	8~200万円
医療	入院(ケガ・病気)		3,000円
	5大成人病による入院		3,000円
	通院(ケガ・病気)		1,500円
	手術(手術倍率に応じて)		3・6・12万円
	がん診断		60万円
	先進医療		1,000万円

若年層 A型 03コース掛金
 男性:1,198円
 女性:1,414円

団体生命共済に加入すれば、死亡・重度障害から、日常の病気・ケガまで幅広く保障されます。

※若年層型のA型では、医療コース05コース以上を選択することができません
 ※経過措置終了の2025年11月の更新より、死亡C型：300万円に変更となります(男性：1,328円)(女性：1,484円)

3. 必要保障額について【附加給付】

例)骨折で同一暦月内に30日入院、医療費総額100万円のケース。



→ **最終的な自己負担 25,000円**

地方公務員は、高額療養費制度に加えて、共済組合の附加給付の「一部負担金払戻金」が支払われる
 →高額な医療費が発生しても1か月あたりの自己負担額は、**25,000円(日額/約850円)**

□医療費以外の自己負担

項目	単価	日額
食事代	460円×3食分	1,380円
差額ベッド代	病院による	6,000円
合計額		7,380円

医療費	医療費以外	合計額
850円	7,380円	8,230円
+		=
個室を除けば...		2,230円

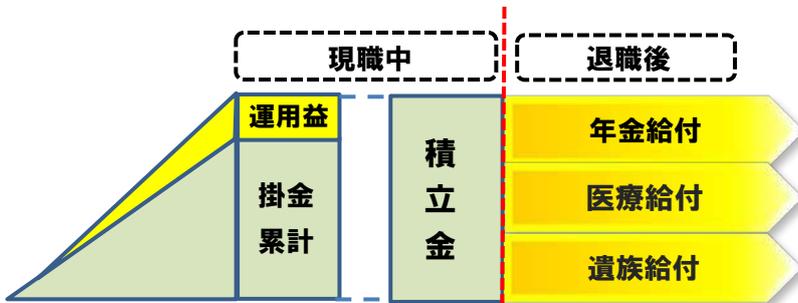
入院日額 3,000円で必要最小限の医療に掛かる自己負担額は十分に抑えられる

4. 長期共済 (積立・退職後の保障) とは

長期共済は、在職中に始める退職後 (将来) のための積立制度です。

月払 (給与控除) : 1 口 3,000 円 ~ 50 口 150,000 円
 随時払 : 10 万円 ~ 200 万円 (1 万円単位)

積立期間中は、積立の口数を増やしたり、減らしたり、中断したりすることが可能



退職後の保障は、「退職するとき」に選択
 → 在職中はとにかく増やす

5. 長期共済の積立シミュレーション

積立方法によって、積立金に対する運用益に差が出てきます。

積立期間: 10 年間
 月払: 1 口 3,000 円
 随時払: ボーナス時に 12 万円 (12 万円 × 3 回)

積立方法	掛金	積立金	運用益
長期共済 月払 : 3,000 円	360,000 円	372,000 円	12,000 円
随時払 12 万円を 3 回	360,000 円	397,000 円	37,000 円

同じ積立期間、掛金でも積立金 ⇒ 運用益に差が出てきます
 随時払を活用することでより効果的な積み立てになります。

※2022 年 9 月時点での予定利率にもとづいた試算です。予定利率は将来変更することがあります。

6. 必要な備え、団体生命共済と長期共済

保障

積み立て

団体生命共済
 A 型 + 03 コース (若年層型)



長期共済

1 口 : 3,000 円

今、万が一のことが起きた時のための『団体生命共済』
 将来、豊かに生活していくための『長期共済』

どちらか一方ではなく、保障も資産形成も備えていくことが必要